

国際都市計画シンポジウム2011に参加しました

太田 広*

1. はじめに

2011年8月25日(木)から27日(土)に、大韓民国慶州市において開催された「国際都市計画シンポジウム2011 (International Symposium on City Planning 2011)」において論文発表を行う機会を得ましたので、その概要を報告します。なお、国際都市計画シンポジウムは、日本都市計画学会(City Planning Institute of Japan)が国際的な学術交流活動の一環として、韓国(Korea Planners Association)、台湾(Taiwan Institute of Urban Planning)の提携学会と共催で毎年、開催しているもので、1994年から数えて今年で18回目となります。日本、韓国、台湾からの参加者のほか、今回はベトナム都市計画・開発協会(Vietnam Urban Planning & Development Association)の代表者も参加するなど、少しずつアジア全体を含めた展開を見せてきています。



写真-1 シンポジウム会場の慶州大学工学部

2. シンポジウム

「国際都市計画シンポジウム2011」は、2000年に世界遺産に登録された新羅王国の古都・慶州で開催されたこともあり、「歴史都市の保存と都市計画(Preservation of Historic City and City Planning)」

をテーマに開催されました。

25日夕刻より、ウェルカム・レセプションが行われ、韓国をはじめ、日本、台湾の代表者からの挨拶の後、岸井隆幸日本都市計画学会会長(日本大学教授)より「東日本大震災(The Great East Japan Earthquake)」に関する報告が行われました。報告の中で津波の動画映像が流されると、華やいだ会場は静まりかえり、参加者は真剣に見入っていました。

26日は、慶州大学工学部(写真-1)の講堂においてオープニング・セレモニーが行われました。主催者挨拶や慶州大学学長からの歓迎の挨拶などに続き、Seung Yong Eom 韓国文化遺産行政庁遺産政策局長の基調講演があり、遺跡などの文化財を単に保存するだけでなく、観光資源として活用しようとする韓国での取り組みが紹介されました。その趣旨は、日本の「歴史まちづくり法」の趣旨とも共通しており、日本と同様の課題を抱えていることがわかりました。

その後、各セッションに分かれて論文発表が行われました。「防災(Disaster Prevention)」のセッションのほか、「観光(Tourism)」「景観計画及びデザイン(Landscape Planning and Design)」など18のセッションが設けられました(表-1)。景観研究に関しては、標識やストリート・ファニチュアの景観評価を取り扱った「Study on the existing condition and evaluation on street furniture in Kobe City in the case of benches and signs in four districts」や文化財の単体保存の課題や歴史的文化的環境を保全する上での都市計画的視点に着目した「A Study on the Landscape Planning of the Historic City Iksan on Management of the Historical Environment」などの論文発表がありました。観光に関連した研究では、伝統的な日本家屋や小庭園を含む町並みの観光資源としての可能性を示した「Study on potential of traditional 'Senzai' (Japanese original common name of traditional front yard garden with plants) in farmhouse sites as tourism resource for foreign visitors」やブログ入力を観光行動分析に利用した研究事例などもあり、景観や観光に関する国際的な研究動向や研究手法などが把

握できました。

表-1 セッションの構成

Session A1	Planning Theory and History 1
Session A2	Planning Theory and History 2
Session A3	Planning Strategies
Session A4	Tourism
Session A5	Transportation and Urban Infrastructure 1
Session A6	Urban and Regional Analysis 1
Session A7	Land and Housing 1
Session A8	Regional Planning 1
Session A9	Sustainable Development 1
Session B1	Planning Theory and History 3
Session B2	Transportation and Urban Infrastructure 2
Session B3	Urban and Regional Analysis 2
Session B4	Land and Housing 2
Session B5	Regional Planning 2
Session B6	Disaster Prevention
Session B7	Landscape Planning and Design
Session B8	Land Use Planning
Session B9	Sustainable Development 2

寒地土木研究所からは、地域景観ユニットリーダーである筆者が「A Policy Study on Applicability of Britain's Green Space Conservation Systems thorough NPO Activities in Japan (英国におけるNPO活動を通じた景観保全システムの適用性に関する研究)」と題して論文発表しました(写真-2)。発表後には質疑応答が行われ、日本におけるグリーンベルトとしての緩衝緑地帯はどの程度の規模か、日本の景観協定制度的においてNPOが関与できないのは何故

か、など日本の行政施策に関連する幅広い質問が出されました。

なお、これらの発表論文は、国際都市計画シンポジウム論文集(Journal of International Symposium on City Planning)に掲載され、毎年、公表されています。



写真-2 セッションでの論文発表の状況

3. おわりに

国際都市計画シンポジウム2011には、来年の開催地である台湾からも多くの方々が参加しました。歴史・文化を背景とする都市景観を観光に活かすという政策ニーズは、多くの歴史・文化遺産を有するアジアの都市に共通する課題であると認識することができました。

このシンポジウムを契機に関係する大学等の研究者との情報交換を進めるとともに、国際的な研究動向にも注意しながら今後の研究活動を進めていきたいと考えています。



太田 広*
Hiroshi OTA

寒地土木研究所
総括研究監
技術士(総合、建設)